

福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の 貯蔵及び処理の状況について（第32報）

平成24年2月1日
東京電力株式会社

1. はじめに

本書は、平成23年6月9日付「東京電力株式会社福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備等の設置について（指示）」（平成23・06・08原院第6号）にて、指示があった以下の内容について報告するものである。

【指示内容】

汚染水の処理設備の稼働後速やかに、同発電所内の汚染水の貯蔵及び処理の状況並びに当該状況を踏まえた今後の見通しについて当院に報告すること。また、その後、集中廃棄物処理建屋内の汚染水の処理が終了するまで、一週間に一度当院に対して、同様の報告を実施すること。

2. 建屋内滞留水の貯蔵及び処理の状況（実績）

1月31日現在の各建屋内（1～4号機（復水器、トレンチを含む））における貯蔵量及び滞留水貯蔵施設（高温焼却炉建屋近傍の地下通路部を含む）における貯蔵量、処理量等は添付資料-1の通り。

3. 貯蔵及び処理の今後の見通し

(1)短期見通し

移送については、滞留水貯蔵施設の貯蔵量、放射能処理装置の稼働状況を踏まえ、1,2号機及び3,4号機の建屋内滞留水水位がOP.3,000前後で維持するように計画する。移送先については、滞留水貯蔵施設であるプロセス主建屋または高温焼却炉建屋とする。

また、処理については、滞留水貯蔵施設の貯蔵量及び移送の状況を踏まえ、実施することとする。

2月7日想定 of 各建屋内（1～4号機（復水器、トレンチを含む））における貯蔵量及び滞留水貯蔵施設（高温焼却炉建屋近傍の地下通路部を含む）における貯蔵量、処理量等は添付資料-2の通り。

(2)中期見通し

1,2号機及び3,4号機の建屋内滞留水については、海洋への放りリスク及び地下水への漏えいリスクを低減させる観点から、建屋内滞留水のOP.4,000到達までの余裕を確保し、建屋内滞留水水位を地下水位よりも低く管理することが必要である。一方で、地下水の流入量を抑制し、建屋内滞留水の発生量を減少させるという観点から、建屋内滞留水水位を当面OP.3,000前後で維持するように、滞留水貯蔵施設の貯蔵容量を踏まえて移送を計画する。

また、プロセス主建屋及び高温焼却炉建屋の滞留水については、中低レベル用処理水受タンクの設置状況や放射能処理装置の稼働率、メンテナンス期間を踏まえて、処理を計画する。

各建屋内(1~4号機(復水器、トレンチを含む))における貯蔵量及び滞留水貯蔵施設(高温焼却炉建屋近傍の地下通路部を含む)における貯蔵及び処理状況の3ヶ月後までの見通しは添付資料-3の通り。

各建屋内及び滞留水貯蔵施設の貯蔵量は、降雨の影響がないと仮定すると、移送及び処理を実施することにより、ほぼ一定で推移する見込みであるが、放射能処理装置の稼働率等により変更の可能性はある。

また、放射能処理装置で処理した水(淡水及び濃縮塩水)は、中低レベル用処理水受タンクにより貯蔵可能である。

以 上

高レベル滞留水の貯蔵及び処理の状況【H24.1.31現在】

区分	
■	高レベル水
■	処理水(塩水)
■	処理水(濃縮塩水)
■	処理水(淡水)
■	淡水

貯蔵量 ※1	前回報告比	貯蔵容量 ※2
濃縮塩水受タンク	97,148m ³ / +3,117m ³	130,900m ³
淡水受タンク	6,771m ³ / +350m ³	25,100m ³
濃縮廃液貯槽	5,447m ³ / ▲10m ³	9,500m ³

※1 淡水化装置、蒸発濃縮装置稼働中は水位が安定しないため参考値扱い
 ※2 運用上の上限値を示す

	塩素濃度
淡水化処理前 / 処理後	2,100ppm / 3ppm (1/24採取)
蒸発濃縮処理前 / 処理後	6,900ppm / 2ppm (12/20採取)

貯蔵量	前回報告比	貯蔵容量 ※2
廃液供給タンク	816m ³ / ▲327m ³	1,200m ³
SPT(B)	1,287m ³ / +155m ³	3,100m ³

※2 運用上の上限値を示す

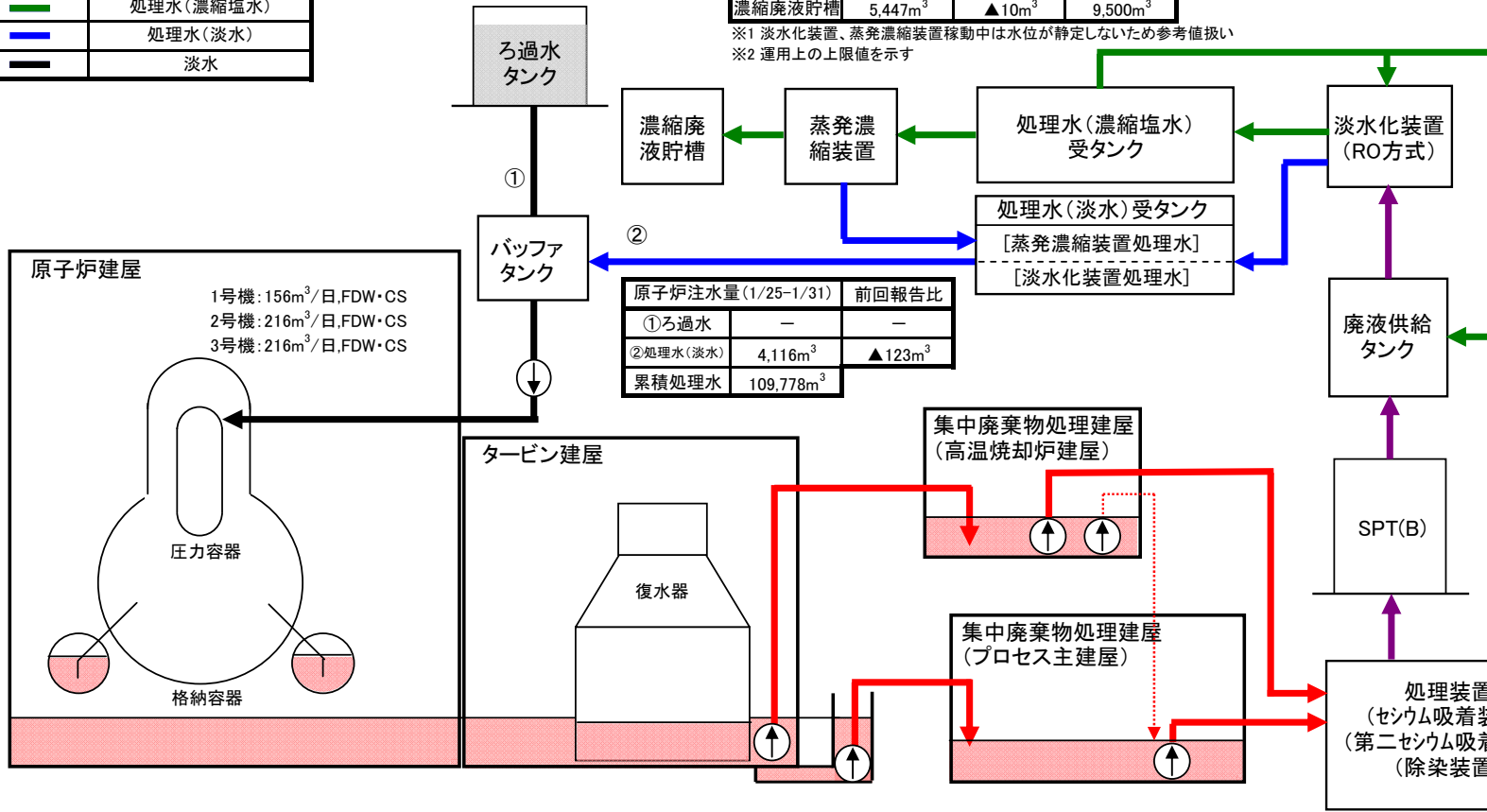
試料採取箇所	試料濃度 ※3
プロセス主建屋	2.8E+05 Bq/cm ³ (1/24採取)
セシウム吸着装置出口	4.6E+00 Bq/cm ³ (1/24採取)
除染装置出口	—
高温焼却炉建屋	2.5E+05 Bq/cm ³ (1/24採取)
第二セシウム吸着装置出口	6.1E-01 Bq/cm ³ (1/24採取)

※3 表記はCs-137のデータ

核種	DF ※4,5
I-131	— (—)
Cs-134	6.0E+04 (2.2E+05)
Cs-137	6.1E+04 (4.1E+05)

※4 1/24採取データ(セシウム吸着装置)

※5 ()内は1/24採取データ(第二セシウム吸着装置)



原子炉注水量(1/25-1/31)	前回報告比
①ろ過水	—
②処理水(淡水)	4,116m ³ / ▲123m ³
累積処理水	109,778m ³

施設	貯蔵量	前回報告比	T/B建屋内水位	移送先
1号機	約13,900m ³	▲30m ³	OP.2,771	高温焼却炉建屋
2号機	約21,800m ³	▲200m ³	OP.3,036	
3号機	約23,000m ³	▲500m ³	OP.2,946	高温焼却炉建屋
4号機	約17,700m ³	▲400m ³	OP.2,959	
合計	約76,400m ³			

貯蔵施設	貯蔵量	前回報告比	水位	処理量(1/25-1/31)	累積処理量	廃棄物発生量	前回報告比	保管容量
プロセス主建屋	約14,710m ³	+830m ³	OP.4,133	約7,540m ³ ※6	約222,760m ³ ※6	廃スラッジ	581m ³	700m ³ ※2
高温焼却炉建屋	約3,590m ³	▲730m ³	OP.2,394			使用済ベッセル	340本 ※7	1,137本 ※8
合計	約18,300m ³						+10本	

※2 運用上の上限値を示す
 ※6 第二セシウム吸着装置による処理量:約5,140m³(累積処理量:約96,920m³)を含む
 ※7 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル(30本)を含む
 ※8 第二セシウム吸着装置使用済ベッセルの保管数に応じ、保管容量は変動

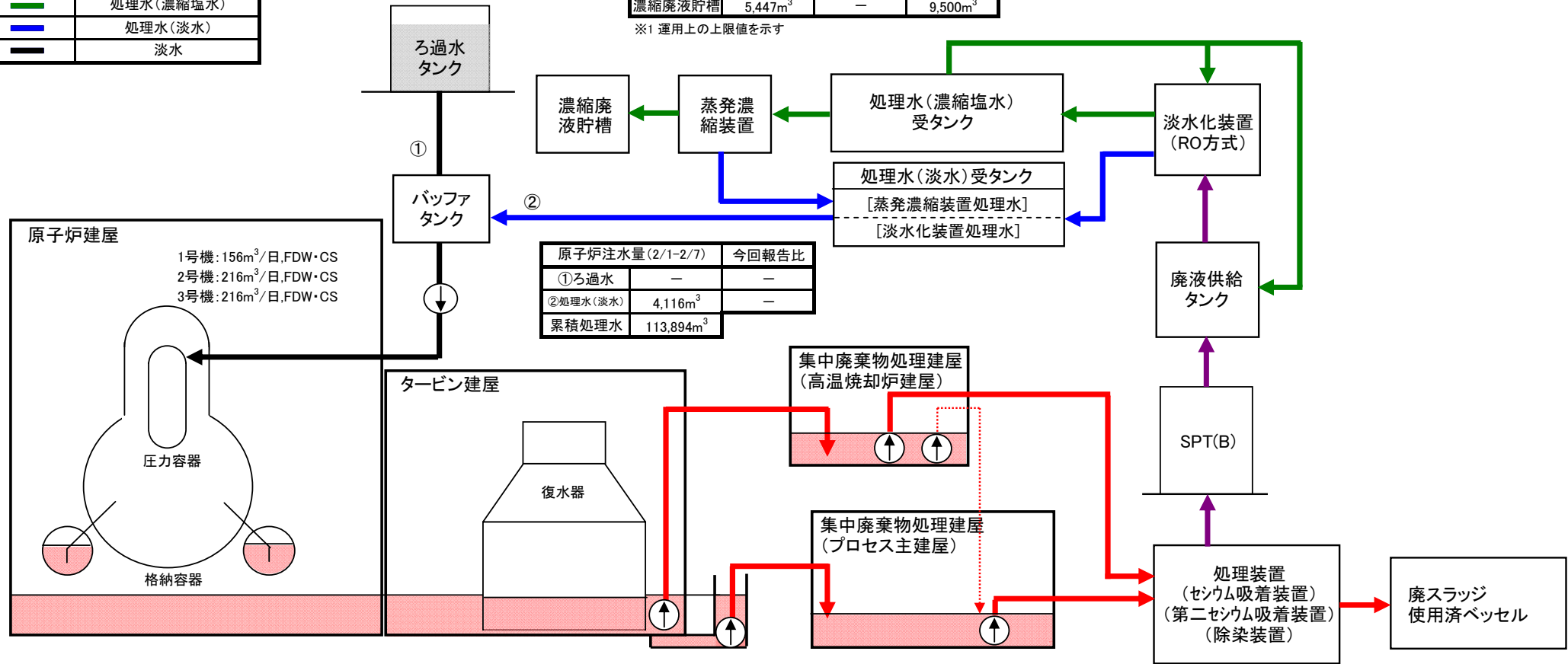
備考
 ・前回報告時点:H24.1.24
 ・2号機、3号機からプロセス主建屋、高温焼却炉建屋へ移送を実施(12/28 ~ 1/30 凍結防止のための移送を実施、1/30 移送配管をPE管(ポリエチレン管)に切替後、水位調整のため2号機、3号機から高温焼却炉建屋への移送を実施)
 ・セシウム吸着装置と第二セシウム吸着装置の2系列運転を実施(セシウム吸着装置 稼働率:28.6%(前回想定稼働率:35%)、第二セシウム吸着装置 稼働率:61.2%(前回想定稼働率:60%)(参考))

高レベル滞留水の貯蔵及び処理の状況【H24.2.7想定】

区分	
	高レベル水
	処理水(塩水)
	処理水(濃縮塩水)
	処理水(淡水)
	淡水

	貯蔵量	今回報告比	貯蔵容量 ※1
濃縮塩水受タンク	100,256m ³	+3,108m ³	130,900m ³
淡水受タンク	7,527m ³	+756m ³	25,100m ³
濃縮廃液貯槽	5,447m ³	-	9,500m ³

※1 運用上の上限値を示す



原子炉注水量(2/1-2/7)		今回報告比
①ろ過水	-	-
②処理水(淡水)	4,116m ³	-
累積処理水	113,894m ³	-

施設	貯蔵量	今回報告比	T/B建屋内水位	移送先
1号機	約13,960m ³	+60m ³	OP.2,984 (2号機T/B)	高温焼却炉建屋
2号機	約21,400m ³	▲400m ³	OP.2,937 (3号機T/B)	高温焼却炉建屋
3号機	約23,000m ³	-		
4号機	約17,700m ³	-		
合計	約76,060m ³			

貯蔵施設	貯蔵量	今回報告比	水位	処理量 (2/1-2/7)	累積処理量	廃棄物発生量	今回報告比	保管容量
プロセス主建屋	約11,750m ³	▲2,960m ³	OP.2,903	約7,980m ³ ※2	約230,740m ³ ※2	廃スラッジ 581m ³	-	700m ³ ※1
高温焼却炉建屋	約4,210m ³	+620m ³	OP.2,904			使用済ベッセル 346本 ※3	+6本	1,137本 ※4
合計	約15,960m ³							

※1 運用上の上限値を示す

※2 第二セシウム吸着装置による想定処理量:約5,040m³ (累積処理量:約101,960m³)を含む

※3 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル(30本)を含む

※4 第二セシウム吸着装置使用済ベッセルの保管数に応じ、保管容量は変動

備考
 ・2号機、3号機から高温焼却炉建屋へ移送実施予定(2号機、3号機から高温焼却炉建屋への移送を一時中断予定)
 ・セシウム吸着装置と第二セシウム吸着装置の2系列運転を予定(セシウム吸着装置 想定稼働率:35%、第二セシウム吸着装置 想定稼働率:60%(参考))

